

臨床研究:

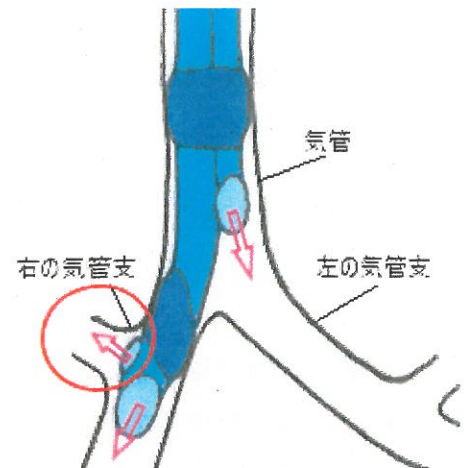
「右上葉換気スロット付き二腔気管支チューブ挿管中の体位変換が患者とチューブの相対的位置に与える影響について」

についてのお知らせ

刀根山病院では上記の研究を実施しています。この研究は当院の臨床研究審査委員会での承認を得て病院長の許可を得て実施しています。本研究では、研究対象者に直接文書・口頭で説明・同意をいただく必要は無いと判断していますが、情報を公開することで研究の実施について周知させていただいております。この研究の詳細をお知りになりたい場合、他の研究対象者の個人情報や、研究の知的財産の保護に支障が無い範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますので下記の「問い合わせ先」にお申し出ください。また、この研究に情報を利用することをご了解いただけない場合は研究対象としないので、下記の「問い合わせ先」までご連絡ください。その場合でも、患者さまに不利益が生じることはありません。

1. 研究課題名 右上葉換気スロット付き二腔気管支チューブ挿管中の体位変換が患者とチューブの相対的位置に与える影響について
2. 研究責任者 麻酔科 松岡 由里子
3. 研究の背景 当院では多くの肺がんの手術をしています。一般に、肺がんの手術では、全身麻酔下で左右の肺を別々に換気する必要があり、手術を安全・確実に行うために、手術や処置の部位や内容に適した人工呼吸用チューブを選択して使用しています。

4. 研究の目的・意義 もともと人間の気管支の分岐の仕方は、左右同じではありません。手術や処置の部位や内容により、右の気管支に挿入する人工呼吸用チューブを選択した場合には、特に図の赤丸部分の状態に注意を払っています。この部分は、体位変換や手術操作の影響を受けやすいため、人工呼吸中にスムーズに酸素や空気が流れるように(図:赤紫色の矢印)、チューブの穴(図:水色)の位置ずれの確認と細かな調整を行っています。その調整は、手術がスムーズに行われ、また手術に伴う合併症を減らす上で非常に重要です。本研究は、今までと同じ通常の診療の範囲内で行い、手術や処置に必要な体位変換によるチューブの穴の位置ずれやそれに応じた調整内容を今までよりも詳しく記録に残して検証し、さらにより質の高い人工呼吸管理ができることを目的としています。



5. 研究の方法

(ア) 対象となる患者さま

西暦 2018 年 7 月 1 日から西暦 2024 年 12 月 31 日の間に、当院で当該人工呼吸用チューブ(チューブの種類を選択は、手術の部位や内容等の医学的理由により、担当麻酔科医が的確に判断いたします)を使用して肺がんの手術や処置を受ける患者さま

研究期間

西暦 2018 年 7 月 1 日から西暦 2024 年 12 月 31 日

(イ) 利用する情報の項目と利用目的

情報: 年齢、性別、疾患、術式、投与薬、使用した人工呼吸用のチューブの種類とサイズとカフ圧、既往歴、合併症、身体所見、各種画像や検査の結果

利用目的: 手術や処置中において必要な体位変換による右の気管支に挿入する人工呼吸用チューブの穴の位置ずれの調整記録

(ウ) 情報の管理

情報は、当院のみで利用します。

6. 研究組織

この研究は、当院単独で実施されます。

7. 個人情報の取扱い

情報には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所、生年月日など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。情報は、当院の研究責任者が責任をもって適切に管理いたします。

8. 問い合わせ先

独立行政法人国立病院機構刀根山病院

麻酔科 松岡由里子

電話:06-6853-2001 FAX:06-6853-3127

Mail: chicken@toneyama.go.jp

2018年6月7日 第1版